

各関係機関長殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第3号を下記のとおり発表したの送付します。

令和7年度病虫害発生予報第3号

令和7年5月29日
岡山県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水 稲	葉いもち ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ ニカメイガ	並 — — —	並 少 並 並
ジャガイモ	疫病	並	並
モ モ	灰星病 黒星病 せん孔細菌病 モモハモグリガ ナシヒメシンクイ カメムシ類	— 並 — 遅 — —	やや少 並 やや少 少 やや多 やや少
ブドウ	べと病 うどんこ病 灰色かび病 フタテンヒメヨコバイ	やや早 やや早 やや早 遅	やや多 やや少 やや多 少
トマト	疫病 灰色かび病 葉かび病	並 — 並	並 やや少 並
キュウリ	べと病 褐斑病 炭疽病	— — 並	やや少 やや多 やや多
ダイコン	軟腐病 コナガ	並 —	やや多 やや多
野菜全般	アブラムシ類 モザイク病 ミナミキイロアザミウマ	— — —	少 並 並
キ ク	白さび病 ナミハダニ	並 並	並 やや多

1. 普通作物

(水 稲)

(1) 葉いもち

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 中北部地帯の田植時期、生育概況は概ね平年並である。

イ. 5月22日発表の1か月予報によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発生をやや助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 育苗箱施用剤の残効は40～60日とされており、5月中旬までの田植えでは6月下旬頃から効果が低下すると考えられるので、その後病斑がみられる場合は薬剤を散布する。

(2) ヒメトビウンカ

予報内容

発生量 ヒメトビウンカ（第1世代成虫） 少

予報の根拠

ア. 県予察ほ場における5月のヒメトビウンカ成幼虫の発生量は6頭であり、平年(79.1頭)より少なかった。

(3) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生量 ツマグロヨコバイ（第1世代成虫） 並

予報の根拠

ア. 県予察ほ場において5月のツマグロヨコバイ成幼虫の発生量は1頭であり、平年(1.1頭)並であった。

防除上の参考事項

ア. ツマグロヨコバイが媒介する萎縮病は、近年少発生が続いている。

(4) ニカメイガ（越冬世代成虫）

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて、5月4半旬までに平年同様誘殺を認めていない。

(ジャガイモ)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月14日の巡回調査によると、平年同様発生を認めなかった。

イ. 5月22日発表の1か月予報によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病をやや助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 発生ほ場では、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2. 果 樹

(モ モ)

(1) 灰星病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月8日の巡回調査によると、花腐れの発生ほ場率は3.6%（平年16.1%）で、5月21日の巡回調査においても芽枯れ、枝病斑の発生を認めなかったことから、幼果への感染量は平年より少ないと考えられる。

イ. 5月22日発表の1か月予報によると、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発生をやや助長する条件となる。

(2) 黒星病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. モモの生育は平年並に推移している。

イ. 5月21日の巡回調査によると、枝上の越冬病斑密度は、平年並に少なかった。

ウ. 幼果における本病の潜伏期間は約35日（果実生長第2期以降は20日）とされている。5月中旬の降水量は平年よりやや少なく、幼果への感染は平年よりやや少ないと考えられる。

(3) セン孔細菌病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月21日の巡回調査によると、発病葉の発生ほ場率は0%で平年（21%）より低かった。

イ. 5月22日発表の1か月予報によると、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発生をやや助長する条件となる。

ウ. 県南部の7月下旬のモモセン孔細菌病の発生と関係の高い「昨年の8月中旬の発生圃場数」（岡山県病害虫防除所調査）は平年よりやや少なかった。

(4) モモハモグリガ（第2世代幼虫）

予報内容

発生時期 遅

発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて、5月4半旬までに誘殺は認められず、平年（5月15日）より遅い。

イ. 赤磐市のフェロモントラップによると、5月1～4半旬の誘殺数は0頭で、平年（0.2頭）より少なかった。

ウ. 5月21日の巡回調査によると、発生ほ場率は0%で平年（1.1%）より低かった。

エ. 5月22日発表の1か月予報によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、本虫の発生をやや助長する条件である。

(5) ナシヒメシクイ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、5月1～4半旬の誘殺数は4頭で、平年（1.0頭）よりやや多かった。越冬世代成虫の誘殺数（4月）は94頭で平年（39.8頭）より多かった。

イ. 5月21日の巡回調査によると、心折れの発生は場率は0%で、平年（5.3%）より低かった。

ウ. 5月22日発表の1か月予報によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、本虫の発生をやや助長する条件である。

(6) カメムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における5月1～4半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は11頭で、平年（24.9頭）よりやや少なく、ツヤアオカメムシの誘殺数は0頭で平年（22.0頭）より少なかった。フェロモントラップでのチャバネアオカメムシ誘殺数は6頭で、平年（168.2頭）より少なかった。

イ. 5月21日の巡回調査によると、発生は場率は0%で平年（11.8%）より低かった。

ウ. 5月22日発表の1か月予報によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、本虫の発生をやや助長する条件である。

(ブドウ)

(1) ベと病

予報内容

発生時期 やや早

発生量 やや多

予報の根拠

ア. ブドウ（ピオーネ）の生育は平年よりやや早く推移している。

イ. 県予察ほ場のピオーネ、シャインマスカットにおいて、平年と同様に5月下旬まで発生を認めていない。

ウ. 5月21日の巡回調査によると、平年並みに発生は認められなかった。

エ. 5月22日発表の1か月予報によると、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発生をやや助長する条件となる。

(2) うどんこ病

予報内容

発生時期 やや早

発生量 やや少

予報の根拠

ア. ブドウ（ピオーネ）の生育は平年より早く推移している。

イ. 5月の日照時間は平年並であり、本病の発生を助長する条件ではない。

ウ. 5月22日発表の1か月予報によると、降水量は平年並か多いとされており、発生を助長する条件ではない。

(3) 灰色かび病

予報内容

発生時期 やや早

発生量 やや多

予報の根拠

ア. ブドウ（ピオーネ）の生育は平年より早く推移している。

イ. 5月21日の巡回調査によると、平年並みに発生は認められなかった。

ウ. 5月22日発表の1か月予報によると、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発生をやや助長する条件となる。

(4) フタテンヒメヨコバイ

予報内容

発生時期 遅
発生量 少

予報の根拠

ア. 5月21日の巡回調査によると、被害発生ほ場率は0%で、平年(4.4%)より低かった。

イ. 5月22日発表の1か月予報によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、発生をやや助長する条件となる。

3. 野 菜

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 並
発生量 並

予報の根拠

ア. 5月20、21日の巡回調査では発生を認めず、発生ほ場率は平年(2.5%)並であった。

イ. 5月22日発表の1か月予報によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病をやや助長する条件となる。

(2) 灰色かび病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月20、21日の巡回調査によると、発生ほ場率は12.5%で平年(38.7%)よりやや低かった。

イ. 5月22日発表の1か月予報によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病をやや助長する条件となる

(3) 葉かび病

予報内容

発生時期 並
発生量 並

予報の根拠

ア. 5月20、21日の巡回調査によると、発生ほ場率は12.5%で平年(34.7%)よりやや低かった。

イ. 5月22日発表の1か月予報によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病を助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 本病の初発生時期(雨除け栽培トマトでは6月下旬～7月上旬)と病勢進展時期(7月下旬～8月上旬)に効果の高い殺菌剤を予防散布する防除体系は、葉かび病の防除に有効である。

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月20、21日の巡回調査によると、発生を認めず、発生圃場率は平年(27.3%)よりやや低かった。

イ. 5月22日発表の1か月予報によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並か

多いとされており、降水量が多い場合、発病をやや助長する条件となる。

(2) 褐斑病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 5月20、21日の巡回調査によると、発生ほ場率は33.3%で平年(18.3%)よりやや高かった。

イ. 5月22日発表の1か月予報によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病を助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 被害葉は初期に除去し、処分する。

イ. 岡山県下ではアミスター20フロアブル、トップジンM水和剤、カンタスドライフロアブル、ゲッター水和剤に対する耐性菌が広く確認されているが、ジマンダイセン水和剤、ダコニール1000などによる病原菌感染前の予防散布が有効である。

(3) 炭疽病

予報内容

発生時期 並

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 5月20、21日の巡回調査では発生を認めず、発生ほ場率は平年(2.5%)並であった。

イ. 5月22日発表の1か月予報によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病を助長する条件となる。

(ダイコン)

(1) 軟腐病

予報内容

発生時期 並

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 5月20日の巡回調査では発生を認めず、発生ほ場率は平年(10.0%)並であった。

イ. 5月22日発表の1か月予報によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病を助長する条件となる。

(2) コナガ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 赤磐市における5月1～4半旬のフェロモントラップへの誘殺数は158頭で、平年(51.7頭)より多かった。

イ. 5月20日の巡回調査では、発生ほ場率は25%で平年(18.5%)よりやや高かった。

(野菜共通)

(1) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性のモザイク病

予報内容

発生量 アブラムシ類 少

モザイク病 並

予報の根拠

ア. 赤磐市における5月1～4半旬の黄色水盤への飛来数は258頭で、平年(435.1

頭)より少なかった。

イ. 5月20、21日の巡回調査によると、アブラムシ類の発生量は平年より少なかった。トマト、キュウリ及びダイコンにおいてモザイク病の発生は認められず、発生ほ場率は平年(キュウリ:5.0%、トマト:0%、ダイコン:10.0%)並であった。

ウ. 5月22日発表の1か月予報によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、本虫の発生を助長する条件ではない。

(2) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月21日の巡回調査によると、ナスでの発生量は平年並であった。

イ. 5月22日発表の1か月予報によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、本虫の発生を助長する条件ではない。

4. 花 き

(キ ク)

(1) 白さび病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月20、21日の巡回調査では発生を認めず、発生ほ場率は平年(1.9%)並であった。

イ. 5月22日発表の1か月予報によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病をやや助長する条件となる。

(2) ナミハダニ

予報内容

発生時期 並

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 5月20、21日の巡回調査によると、発生ほ場率は28.6%で平年(2.2%)よりやや高かった。

イ. 5月22日発表の1か月予報によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、本虫の発生を助長する条件ではない。

この情報は、岡山県病虫害防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、
<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/>です。

